

回文&段駄羅

2024/3/27

こじままじこ (小島裕子)

桜の開花予想も天候によって左右され、人の思いのままにはならず気を揉ませています。でも、これほど桜の開花日を気にするようになったのはいつ頃からなのでしょう。

さて、今回の作品は回文と段駄羅です。段駄羅もとても面白い言葉遊びです。外国語の中にも日本語のように多種多様の単語遊びや言葉使い遊びが出来る言語があるのでしょうか。興味があります。

【回文】

しなうどんかみむみかندوقなし (支那うどん噛み、無味、感動なし)

かっこいいはんだんさんだんはいいこっか (カッコいい判断算段は、良い国家)

はとけだるきいちにちいちにちいきるだけとは
(鳩、けだるき一日一日、生きるだけとは)

いわいのひおばおきまりのこのきのこのりまきおばおひのいわい
(祝いの日、叔母お決まりのキノコ海苔巻き、叔母甥の祝い)

【段駄羅】

(5・7・7・7・5 文字の言葉遊び。中の7文字は同じ読み方で異なる意味を持ち、最後の5文字に繋げる。前後の風景の落差を楽しむ言葉遊び) 清音⇄濁音などは可。

湧くからに 流るるからに／名が「ルル」柄に もない男 (漱石の句より)

行けど萩 行けど薄(すすき)の／いけトス、隙の ある今だ！ (漱石の句より)

遺言は 公証役場／交渉役は いつも俺

寄り切って 勝ってはみたが／かつては三田が 我が住まい